

みなさんおはようございます。年が新しくなり、年度の締めくくりとなる3学期が始まりました。3学期はあっという間に過ぎ去り、すぐに次の年度に入っていきます。だからこそ、年度末をきちんと締めくくれるように過ごしましょう。

この年末年始、さまざまなスポーツの大会をテレビなどで観戦し、感動や勇気をもらいました。特に箱根駅伝第5区での大逆転劇には胸を打たれるものがありました。これから受験に挑む3年生にも同じようなドラマを期待しています。受験においてラストスパートと言える時期に入っています。今までの学習を振り返り、不安を覚える知識があればその確認を、集中力を発揮するための体調管理を大切にして、自分を信じて入試に臨んでください。

さて、みなさんは今年の目標を立てましたか。「一年の計は元旦にあり」ということわざを聞いたことがあると思います。「元旦」は1月1日の朝（夜明けから午前中）を指しますが、充実した1年にするために1年の初めにきちんと目標を立てて努力することが大切であるという意味のことわざです。まだ目標を立てていない人は、今からでも遅くはありません。この1年をどう過ごしていくのか、しっかりと考えて、気持ちを新たに頑張りたいと思います。「一年の計は元旦にあり」という言葉の由来の一つに次のような言葉があります。「一日（いちじつ）の計は晨（あした、早朝）にあり、一年の計は春にあり、一生の計は勤にあり、一家の計は身にあり」というものです。全体としての意味は、一日の始まりである朝や、一年の初めである元旦に計画を立て、よい一生を送るためには勤勉であること、家族の将来のためには健康であることが大切、といった感じになります。計画を立て、勤勉であり、健康であることを大切にしたいものです。

1年前の始業式でも話したのですが、西舞鶴高校では卒業から30年目を迎えた同窓生が1月2日に全クラス合同で同窓会を開く伝統があり、今年も校長として出席してきました。また、年末には個人的に卒業生と出会う機会もありました。そういった中で、西高卒業生、教え子の活躍の話を聞くことができました。研究内容が科学雑誌Natureに掲載された名古屋大学の医学博士、ポリテクカレッジを卒業して名古屋や東京での勤務を経て沖縄でWeb制作会社を立ち上げた起業家、臨床心理学専攻からコンピューターグラフィックスの世界に転身し映画製作などに関わっているクリエイターなど、他にも多方面での活躍の話を聞くことができました。教師という仕事をしていて、卒業生や教え子の活躍の話を聞くことは幸せなことだと感じていました。同時に、卒業生たちに、現在の西舞鶴高校のこと、つまりみなさんの活躍の様子を報告することもできました。今後も同窓生、地域の方々に良い報告ができるよう、みなさんの活躍に期待しております。

さて、社会状況が大きく変化をしていく中で「2040年問題」という言葉が登場しています。2040年には65歳以上が人口の35%以上、75歳以上が20%以上になると予測され、労働力不足や社会保障の逼迫、インフラの老朽化などが心配されています。14年後、30歳前後となった自分の姿を明確に思い描くのは難しいと思います。今日は10代のうちに身につけてほしいことをいくつか話します。

一つ目は、学びの基盤を広げることです。得意不得意があるのは構わないですが、苦手だからやらないのではなく、苦手なことにも向き合いきましょう。教科の学習や探究活動、英語での交流を含むコミュニケーション力、データを分析する力など、幅広く学び多くの道具を自分のものにしてください。

二つ目は、困難な状況に直面した際に、しなやかに適応し、回復する力、すなわちレジリエンスです。学校行事や部活動、ボランティア活動で挑戦を重ね、困難を乗り越える経験を積んでください。

三つ目は、複数のスキルを持ち、それらを混ぜ合わせる力です。これによって、新しい価値観を生み出し、起業や副業といった働き方の幅を広げることができるようになります。

そして、最も大切なのは、自分の好きなことや得意なことを極め、自分の強みを理解することです。入学試験や入社試験などでの面接では、自分の強みや長所について聞かれることがあります。それらを深く理解していないと語ることはできません。自分の強みや長所は何なのか、家族や友人、先生に聞いてみるのも一つの方法です。

2026年は、活力と勢いを感じさせる丙午（ひのえうま）の年です。みなさんが、自由な発想と躍動感をもって、自らの未来を力強く駆け抜けていけるよう応援していきます。すべての西高生がさらなる成長を遂げる1年にしてほしいと思います。

以上で3学期始業の式辞とします。

令和8年1月8日  
京都府立西舞鶴高等学校  
校長 田邊 仁司